

【学力向上フロンティアスク - ル用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖 縄 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	南風原町立津嘉山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	4	3	3	1	21	校長 1 教頭 1
児童数	135	114	107	123	120	113	2	714	教諭 28

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ力を身につけ、進んで行動する児童の育成  
～基礎基本の定着を図るための指導の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

少人数指導(教科:算数)  
達成度テスト等の結果より、つまずきが多く見られる。きめ細かい指導が必要だと考えられる。(3, 4, 5, 6学年で実施)  
教科担任制(教科:社会、理科、体育、音楽、家庭科)  
教科指導の充実を図ると共に、児童一人一人の教科に対する興味関心・学習意欲を高め、学力の向上を図る。5, 6学年で実施。  
補習指導時間の確保と学習ボランティアの活用(算数)  
家庭学習時間の確保(手引きの作成と保護者との連携)

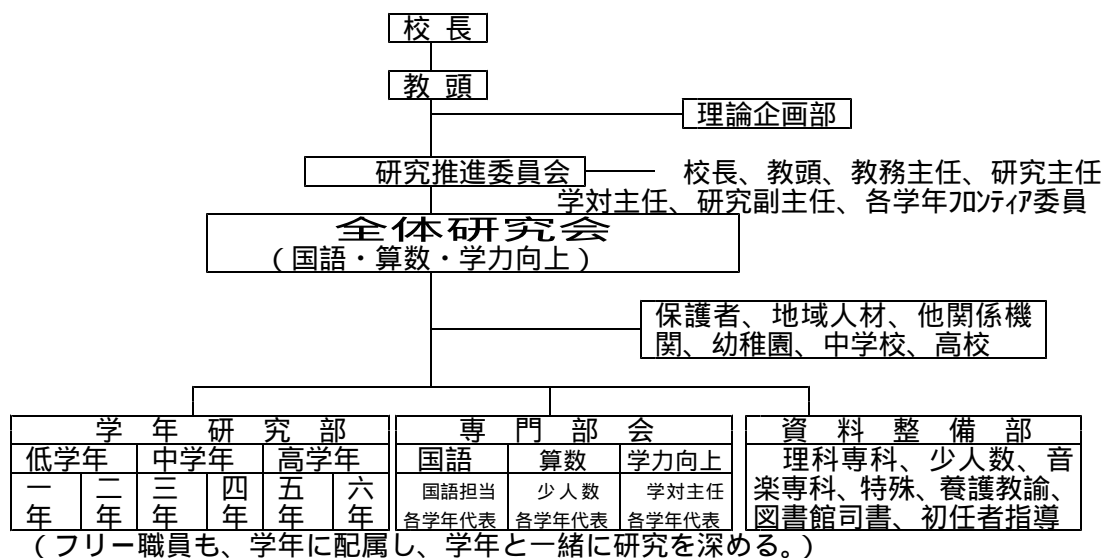
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を身につけ、進んで行動する児童の育成 ～基礎基本の定着を図るための指導の工夫～</p> <p>研究仮説 ・児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導のための指導方法・指導体制のあり方を工夫すれば、児童は基礎・基本を身につけ、自ら学び、進んで行動できる力を持った子が育つであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 個に応じた指導法・指導体制の工夫改善 ・教科担任制の導入・実施 ・補習指導時間の確保と学習ボランティアの活用 ・「話す・聞く」(国語科)事項の学年系統表・個人カルテの作成と活用 (2) 少人数指導等の指導方法の工夫・改善 ・4, 6学年における算数指導 (3) 家庭学習の習慣化を図る取り組みと保護者との連携 ・家庭学習調査 / 講演会 / 家庭学習指導 (4) 「総合的な学習の時間」の充実 ・問題解決学習 / コンピュータ活用 / 英語活動</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を身につけ、進んで行動する児童の育成 ～基礎基本の定着を図るための指導の工夫～</p> <p>研究仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導のための指導方法・指導体制のあり方を工夫すれば、児童は基礎・基本を身につけ、自ら学び、進んで行動できる力を持った子が育つであろう。</li> <li>・学力の評価を生かした、指導改善や教材開発の工夫を行うことで基礎・基本の定着が図られ、自ら学び、進んで行動できる力を持った子が育つであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実 個に応じた指導(発展・補充)のための教材開発 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解や習熟の程度に応じた指導(全学年)</li> <li>・少人数指導(算数3・4・5・6学年)</li> <li>・教科担任制(5・6学年)</li> </ul> <p>学力の評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科において、各單元ごとの前提テストなどを通して児童の実態を把握する。</li> <li>・学力検査や單元テスト、達成度テスト等を活用し、課題となる点や得意な点を把握し、今後の指導の参考とする。</li> <li>・自己評価カードを活用し、児童の意識面の実態を把握して支援する。</li> </ul> <p>(2) 学力の向上を図るための様々な実践(読み聞かせ、マスターテスト、補習等の時間等)</p> <p>少人数指導学年と教科担任制学年を増やした。 平成14年度の実績から 平成14年度の実践との比較のため</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 自ら学ぶ力を身につけ、進んで行動する児童の育成 ～基礎基本の定着を図るための指導の工夫～</p> <p>研究仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導のための指導方法・指導体制のあり方を工夫すれば、児童は基礎・基本を身につけ、自ら学び、進んで行動できる力を持った子が育つであろう。</li> <li>・学力の評価を生かした、指導改善や教材開発の工夫を行うことで基礎・基本の定着が図られ、自ら学び、進んで行動できる力を持った子が育つであろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任制の継続(6学年)</li> <li>・個に応じた指導(発展)のための教材開発</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</li> <li>・習熟度別少人数授業学年の拡大と実施</li> <li>・学力の評価を生かした指導の改善</li> <li>・公開研究発表会の開催</li> </ul>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1 アンケート集計（少人数指導について）  
少人数指導になってよかったですか。

5年生	1組	2組	3組	合計	%	6年生	1組	2組	3組	合計	%						
はい	3	4	3	0	2	8	9	2	78.6	はい	3	7	3	3	1	101	91.8

少人数指導になって、授業が分かりやすくなった。

5年生	1組	2組	3組	合計	%	6年生	1組	2組	3組	合計	%								
はい	3	1	3	2	3	1	9	4	80.3	はい	3	5	3	0	3	2	9	7	88.2

少人数指導になって、前の学年の時よりテストの点数が上がった。

5年生	1組	2組	3組	合計	%	6年生	1組	2組	3組	合計	%								
はい	2	7	2	0	1	9	6	6	56.4	はい	2	5	1	9	1	6	6	0	54.5

【考察】算数を少人数指導で行うことによって、児童の算数への興味・関心が高まっていることがわかる。特に、少人数指導になって「授業がわかりやすくなった」という子が5.6学年とも80%を超えていることは、本校の取り組みが順調にしている証だと考える。

2 アンケート集計（教科担任制について）  
教科担任制になってよかったですか。

5年生	1組	2組	3組	合計	%	6年生	1組	2組	3組	合計	%				
はい	3	2	3	5	7	7	86.5	はい	3	7	2	7	6	4	84.2

【考察】2つの学年とも今年度は、初任者が入っているためそのクラスは除いた教科担任制となっている。教科担任制に対して、好意的な評価がほとんどである。

3 平成15年度 学年別一人当たりの貸し出し冊数（4月～12月まで）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
計	133.3	145.9	125.8	90.9	132.6	131.9	126.1

朝の読書や絵本の読み聞かせを通して、国語力の高まりだけでなく、落ち着いた態度で1日のスタートが出来るようになった。

#### 4 平成15年11月集計 学年別家庭学習時間（児童アンケートの結果より）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
計	38分	43分	48分	53分	70分	75分	54分

家庭学習の手引を全学年作成し、それを活用してやり方を指導したことにより、児童の家庭学習の取り組みが良くなった。

#### 5 平成15年度島尻郡基礎学力検査、県達成度テスト結果（12月3日実施）

学年	3年	4年	5年	6年	
国	33.3	38.1	35.6	42.6 (40.1)	50点満点
算	45.0	38.0	34.8	44.4 (40.3)	( )内は県平均点

補習指導の時間を確保し、全職員体制で指導を行うことで、定着の弱い児童に進歩が見られた。

町検定テストや基礎基本事例集を活用したドリルを活用することにより、基礎基本が定着しつつある。

算数科において、前提テストを実施する。一人一人の既習学習における基礎・基本の定着の度合いを把握し、個に応じた修復学習を行ってから新しく単元に入ったので子どもの興味・関心が高まった。また、基礎・基本の定着も良くなった。

算数で少人数指導を行うことで、児童は自分にあったコースで学習ができ、授業に意欲的に参加し、定着も良くなっている。

## 2. 今後の課題

基本的な生活習慣や基礎的な学習態度（聞く、学習道具の準備など）の定着を図り、さらに基礎学力の向上をめざす。

コンピュータや視聴覚機器を利用した効果的な学習指導の工夫を図る。

子どもの意欲を高めるための評価の研究が必要。

話し合いの時間、研修の時間、補習時間の確保が大変厳しい。

今年度までは、基礎的・補足的な教材作りに重点を置いた。次年度は、発展的な学習の教材・問題作りを重点的に進めたい。

高学年で教科担任制を実施しているが、その学年への担当希望者が少ない。高学年での教科担任を、だれでも希望できる環境作りが必要である。

### 学力等把握のための学校としての取組

家庭学習調査（1学期7月、2学期11月各1週間調査）

目的：家庭における学習について保護者と一緒に取り組む環境づくり

内容：学習内容、学習時間

沖縄県6学年達成度テスト（12月3日）

島尻郡3～5学年基礎学力テスト（12月3日）

目的：達成状況を調べ、その結果を分析考察し、指導法の工夫改善に反映させる。

内容：当該学年までの内容

2～5学年学力検査（1学期5月、3学期2月）

目的：達成状況を調べ、その結果を分析考察し、指導法の工夫改善に反映させる。

内容：当該学年までの内容

国・算検定テスト（随時）

目的：くり返し指導することにより、当該学年の学習内容を習得させる。

内容：「漢字」と「数と計算」当該学年で学習する内容

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ( 1 ) 南風原町学力向上実践発表会における実践発表 ( 1 2 月 7 日 )
  - ( 2 ) フロンティアスクールに関する学校訪問の受入と資料配布 ( 随時 )
  - ( 3 ) 保護者、地域向け「学力向上実践発表会」の開催 ( 2 月 1 日 )
  - ( 4 ) 研究のまとめ島尻管内の全小・中学校への配布
  - ( 5 ) 実践研究の成果などを紹介するホームページの開設
- <http://www1.town.haebaru.okinawa.jp/se-tuka/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
                              13～18学級                     19～24学級  
                              25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                              一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】             国語       社会       算数       理科  
                              生活       音楽       図画工作       家庭  
                              体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無